

青森県景気ウォッチャー調査 (令和5年10月期)

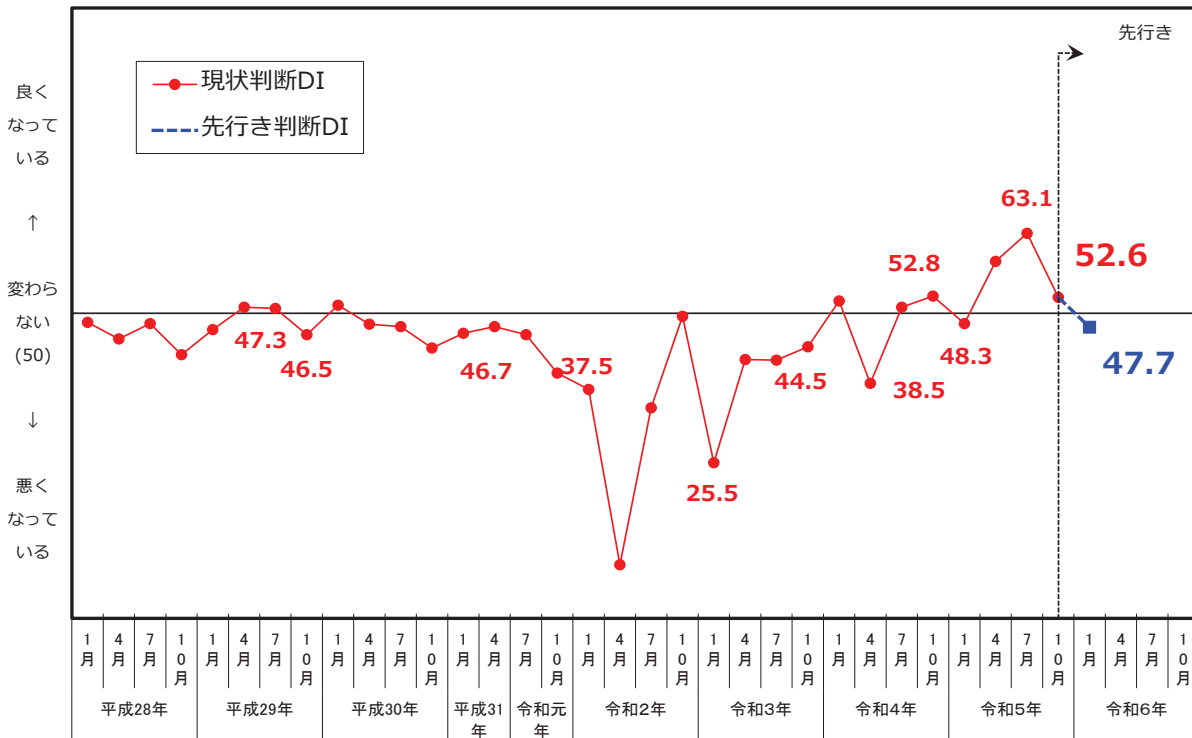
調査期間 令和5年9月29日～10月18日 回答率 97%

概況

10月期の景気の現状判断DIは52.6となり、前期から10.5ポイント低下したものの、景気の横ばいを示す50を3期連続で上回った。

先行き判断DIは、現状判断DIと比べて4.9ポイント低下の47.7となった。

景気現状判断DIの推移・今後の先行き判断DI



令和5年11月

青森県企画政策部統計分析課

1. 結果概要

(1) 3カ月前と比べた景気の現状判断DI

① 県全体の動向

前期調査と比べると、「良くなっている」が4.1ポイント低下、「やや良くなっている」が19.6ポイント低下、「変わらない」が8.2ポイント上昇、「やや悪くなっている」が16.5ポイント上昇、「悪くなっている」が1.0ポイント低下となった。

全体では52.6となり、前期から10.5ポイント低下したものの、景気の横ばいを示す50を3期連続で上回った。

判断理由では、イベントや祭りが通常開催されたこと等に伴い、観光客などの人の動きが増加しているといった声があった。

一方で、物価上昇や光熱費等のエネルギー価格の高騰に伴う先行きの不透明さに対する懸念や、消費の落ち込みを指摘する声も多くみられた。

② 分野別の動向

前期調査と比べると、家計関連全体で12.3ポイント低下、企業関連で4.5ポイント低下、雇用関連で7.2ポイント低下となった。

③ 地区別の動向

前期調査と比べて、全ての地区で減少したものの、東青、下北で景気の横ばいを示す50を上回った。

(2) 3カ月後の景気の先行き判断DI

① 県全体の動向

今期調査の現状判断DIと比べると、「良くなる」が1.0ポイント低下、「やや良くなる」が9.3ポイント低下、「変わらない」が6.2ポイント上昇、「やや悪くなる」が同水準、「悪くなる」が4.1ポイント上昇となった。

全体では47.7となり、今期調査の現状判断DIと比べて4.9ポイント低下し、景気の横ばいを示す50を下回った。

判断理由では、最低賃金の上昇に伴い、消費の増加を期待する声があった。

一方で、物価上昇とこれから冬を迎える中での光熱費等の価格高騰による家計負担の増加を懸念する声や、これに伴い消費行動の低迷が今後も続くことが予想されるといった声があった。

② 分野別の動向

今期調査の現状判断DIと比べて、家計関連全体で3.1ポイント低下、企業関連で11.7ポイント低下、雇用関連で7.1ポイント低下となった。

③ 地区別の動向

今期調査の現状判断DIと比べて、東青、県南、下北の3地区で低下し、下北以外の地区で景気の横ばいを示す50を下回った。

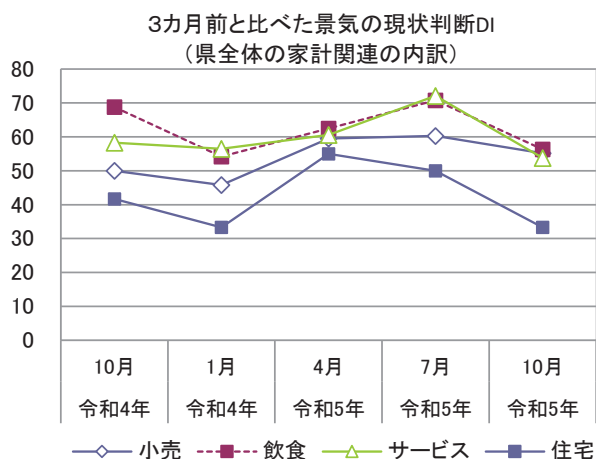
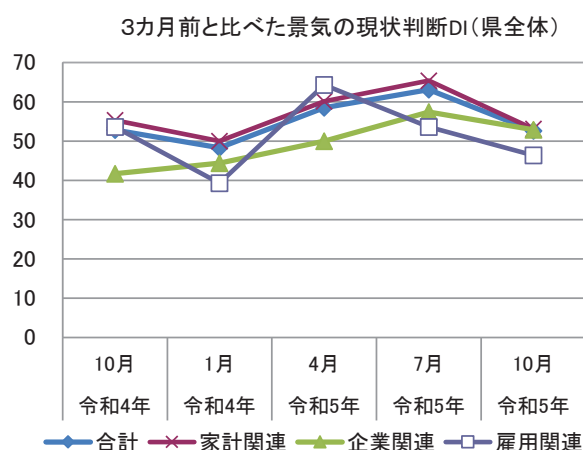
2. 県全体の動向

(1) 3カ月前と比べた景気の現状判断

①DI

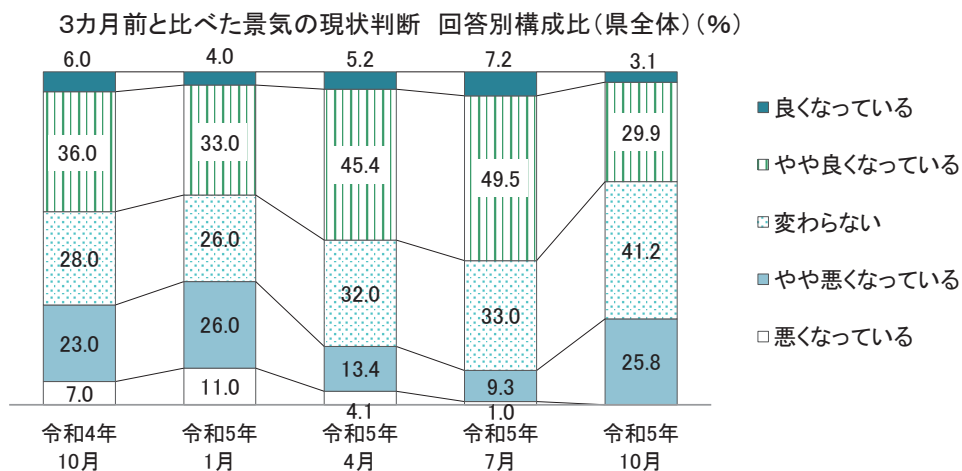
n = 97

	令和4年 10月	令和4年 1月	令和5年 4月	令和5年 7月	令和5年 10月	前期調査 との差
合計	52.8	48.3	58.5	63.1	52.6	▲ 10.5
家計関連	55.3	50.0	60.1	65.4	53.1	▲ 12.3
小売	50.0	45.8	59.5	60.3	55.2	▲ 5.1
飲食	68.8	54.2	62.5	70.8	56.3	▲ 14.5
サービス	58.3	56.5	60.6	72.1	53.8	▲ 18.3
住宅	41.7	33.3	55.0	50.0	33.3	▲ 16.7
企業関連	41.7	44.4	50.0	57.4	52.9	▲ 4.5
雇用関連	53.6	39.3	64.3	53.6	46.4	▲ 7.2



②回答別構成比(%)

	令和4年 10月	令和5年 1月	令和5年 4月	令和5年 7月	令和5年 10月	前期調査 との差
良くなっている	6.0	4.0	5.2	7.2	3.1	▲ 4.1
やや良くなっている	36.0	33.0	45.4	49.5	29.9	▲ 19.6
変わらない	28.0	26.0	32.0	33.0	41.2	8.2
やや悪くなっている	23.0	26.0	13.4	9.3	25.8	16.5
悪くなっている	7.0	11.0	4.1	1.0	0.0	▲ 1.0



(2) 3カ月後の景気の先行き判断 ※表及びグラフでは各調査期の3カ月後の月で表記

① D I

n = 97

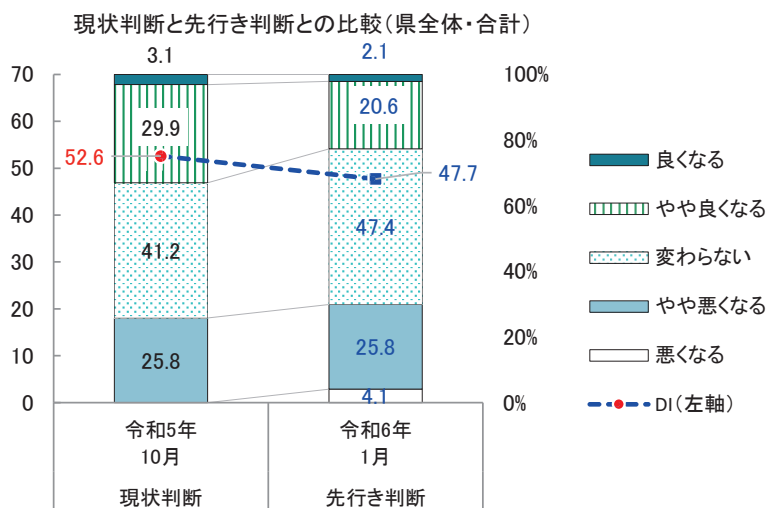
	令和5年 1月	令和5年 4月	令和5年 7月	令和5年 10月	令和6年 1月	前期調査 との差
合 計	49.0	50.0	62.4	61.1	47.7	▲ 13.4
家計関連	50.7	52.7	64.6	63.7	50.0	▲ 13.7
小売	45.8	53.3	62.1	60.3	50.0	▲ 10.3
飲食	70.5	52.1	72.9	70.8	62.5	▲ 8.3
サービス	50.9	54.6	64.4	68.3	47.1	▲ 21.2
住宅	37.5	41.7	60.0	45.8	37.5	▲ 8.3
企業関連	40.3	37.5	52.8	51.5	41.2	▲ 10.3
雇用関連	53.6	53.6	64.3	57.1	39.3	▲ 17.8

② 今期の現状判断 D I と先行き判断 D I との比較

	現状判断 令和5年 10月	先行き判断 令和6年 1月	差
合 計	52.6	47.7	▲ 4.9
家計関連	53.1	50.0	▲ 3.1
小売	55.2	50.0	▲ 5.2
飲食	56.3	62.5	▲ 6.2
サービス	53.8	47.1	▲ 6.7
住宅	33.3	37.5	▲ 4.2
企業関連	52.9	41.2	▲ 11.7
雇用関連	46.4	39.3	▲ 7.1

・回答別構成比 (%)

	現状判断 令和5年 10月	先行き判断 令和6年 1月	差
良くなる	3.1	2.1	▲ 1.0
やや良くなる	29.9	20.6	▲ 9.3
変わらない	41.2	47.4	▲ 6.2
やや悪くなる	25.8	25.8	0.0
悪くなる	0.0	4.1	▲ 4.1



3. 地区別の動向

※下北地区については、サンプル数が少ないため、参考値とする。

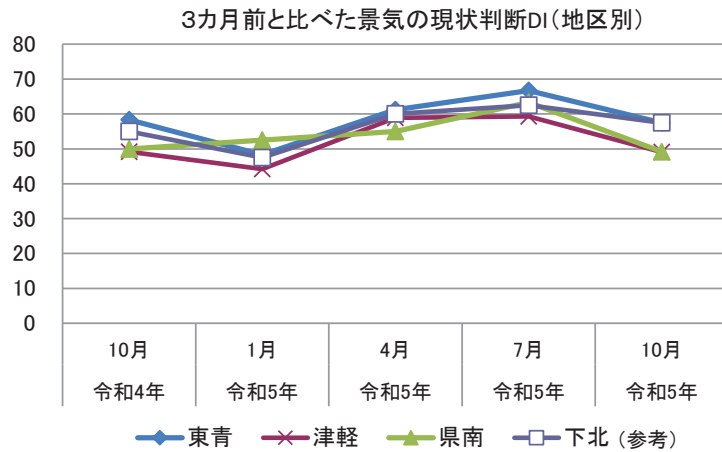
(1) 3カ月前と比べた景気の現状判断

<地区別>

①DI

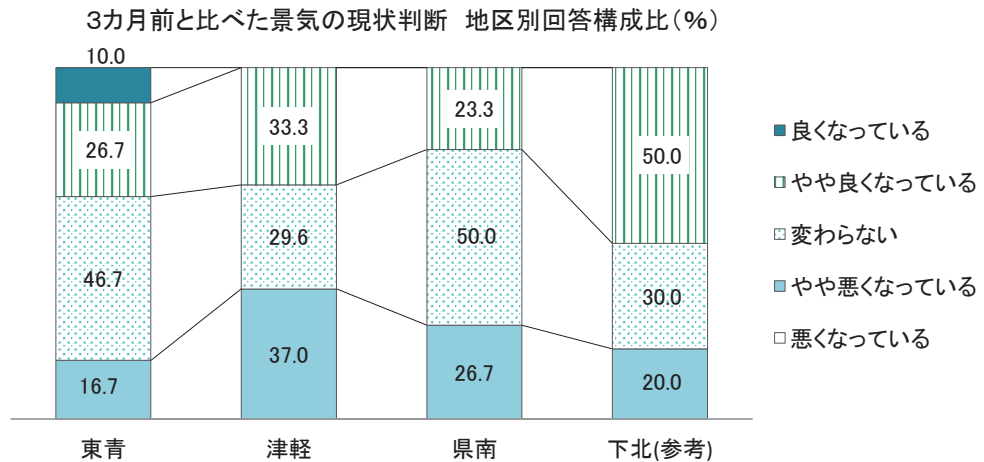
n = 97

	令和4年 10月	令和5年 1月	令和5年 4月	令和5年 7月	令和5年 10月	前期調査 との差
合計	52.8	48.3	58.5	63.1	52.6	▲ 10.5
東青	58.3	48.3	61.2	66.7	57.5	▲ 9.2
津軽	49.2	44.2	58.9	59.3	49.1	▲ 10.2
県南	50.0	52.5	55.0	63.3	49.2	▲ 14.1
下北	55.0	47.5	60.0	62.5	57.5	▲ 5.0



②地区別回答構成比 (%)

	東青	津軽	県南	下北(参考)
良くなっている	10.0	0.0	0.0	0.0
やや良くなっている	26.7	33.3	23.3	50.0
変わらない	46.7	29.6	50.0	30.0
やや悪くなっている	16.7	37.0	26.7	20.0
悪くなっている	0.0	0.0	0.0	0.0



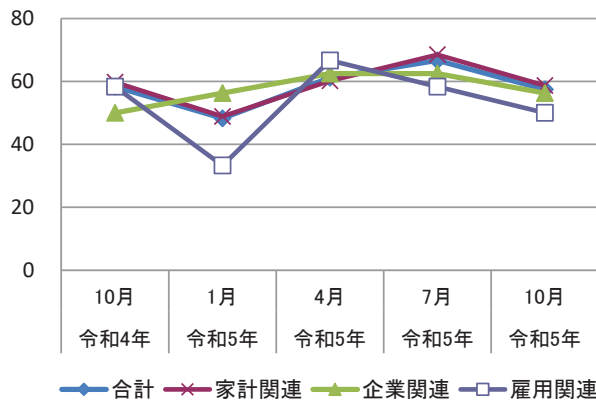
<東青地区>

①DI

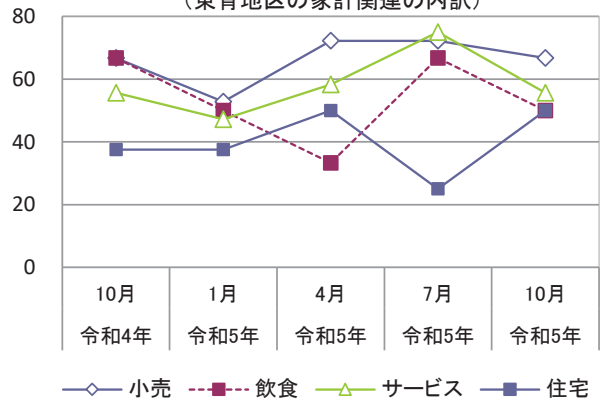
n = 30

	令和4年 10月	令和5年 1月	令和5年 4月	令和5年 7月	令和5年 10月	前期調査 との差
合計	58.3	48.3	61.2	66.7	57.5	▲ 9.2
家計関連	59.8	48.9	60.2	68.5	58.7	▲ 9.8
小売	66.7	52.8	72.2	72.2	66.7	▲ 5.5
飲食	66.7	50.0	33.3	66.7	50.0	▲ 16.7
サービス	55.6	47.2	58.3	75.0	55.6	▲ 19.4
住宅	37.5	37.5	50.0	25.0	50.0	25.0
企業関連	50.0	56.3	62.5	62.5	56.3	▲ 6.2
雇用関連	58.3	33.3	66.7	58.3	50.0	▲ 8.3

3カ月前と比べた景気の現状判断DI(東青地区)



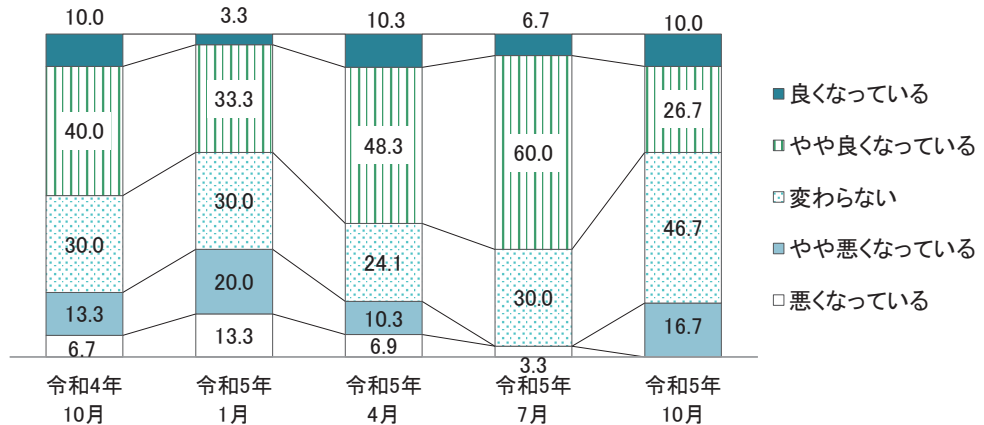
3カ月前と比べた景気の現状判断DI
(東青地区の家計関連の内訳)



②回答別構成比 (%)

	令和4年 10月	令和5年 1月	令和5年 4月	令和5年 7月	令和5年 10月	前期調査 との差
良くなっている	10.0	3.3	10.3	6.7	10.0	3.3
やや良くなっている	40.0	33.3	48.3	60.0	26.7	▲ 33.3
変わらない	30.0	30.0	24.1	30.0	46.7	16.7
やや悪くなっている	13.3	20.0	10.3	0.0	16.7	16.7
悪くなっている	6.7	13.3	6.9	3.3	0.0	▲ 3.3

3カ月前と比べた景気の現状判断 回答別構成比(東青地区)(%)



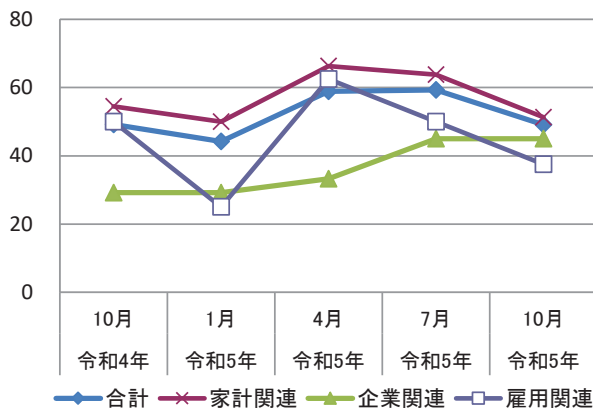
<津軽地区>

①DI

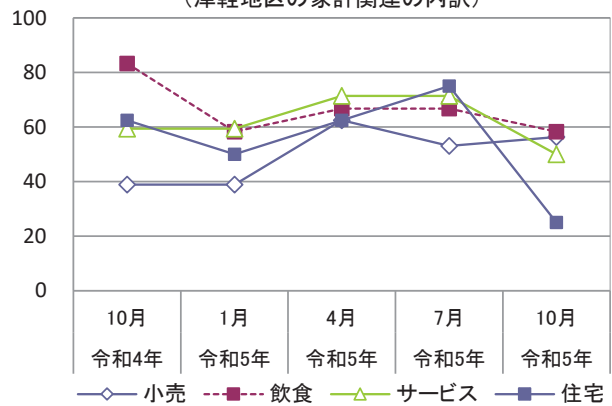
n=27

		令和4年 10月	令和5年 1月	令和5年 4月	令和5年 7月	令和5年 10月	前期調査 との差
合 計	家計関連	49.2	44.2	58.9	59.3	49.1	▲ 10.2
	小売	54.5	50.0	66.3	63.8	51.3	▲ 12.5
	飲食	38.9	38.9	62.5	53.1	56.3	▲ 3.2
	サービス	83.3	58.3	66.7	66.7	58.3	▲ 8.4
	住宅	59.4	59.4	71.4	71.4	50.0	▲ 21.4
	企業関連	62.5	50.0	62.5	75.0	25.0	▲ 50.0
	雇用関連	29.2	29.2	33.3	45.0	45.0	0.0
雇用関連	50.0	25.0	62.5	50.0	37.5	▲ 12.5	

3カ月前と比べた景気の現状判断DI(津軽地区)



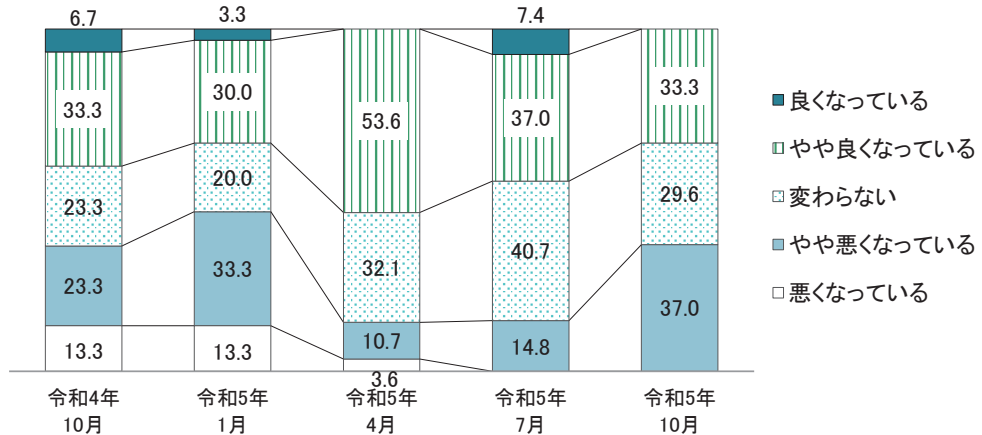
3カ月前と比べた景気の現状判断DI
(津軽地区の家計関連の内訳)



②回答別構成比(%)

	令和4年 10月	令和5年 1月	令和5年 4月	令和5年 7月	令和5年 10月	前期調査 との差
良くなっている	6.7	3.3	0.0	7.4	0.0	▲ 7.4
やや良くなっている	33.3	30.0	53.6	37.0	33.3	▲ 3.7
変わらない	23.3	20.0	32.1	40.7	29.6	▲ 11.1
やや悪くなっている	23.3	33.3	10.7	14.8	37.0	22.2
悪くなっている	13.3	13.3	3.6	0.0	0.0	0.0

3カ月前と比べた景気の現状判断 回答別構成比(津軽地区)(%)



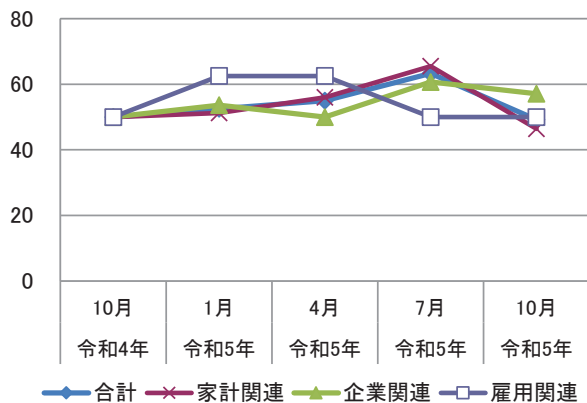
<県南地区>

①DI

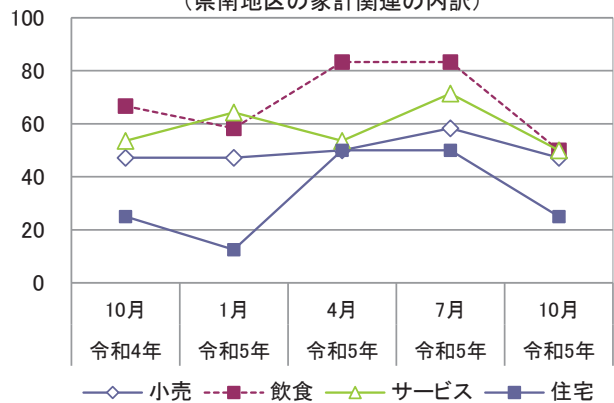
n = 30

	令和4年 10月	令和5年 1月	令和5年 4月	令和5年 7月	令和5年 10月	前期調査 との差
合計	50.0	52.5	55.0	63.3	49.2	▲ 14.1
家計関連	50.0	51.2	56.0	65.5	46.4	▲ 19.1
小売	47.2	47.2	50.0	58.3	47.2	▲ 11.1
飲食	66.7	58.3	83.3	83.3	50.0	▲ 33.3
サービス	53.6	64.3	53.6	71.4	50.0	▲ 21.4
住宅	25.0	12.5	50.0	50.0	25.0	▲ 25.0
企業関連	50.0	53.6	50.0	60.7	57.1	▲ 3.6
雇用関連	50.0	62.5	62.5	50.0	50.0	0.0

3カ月前と比べた景気の現状判断DI(県南地区)



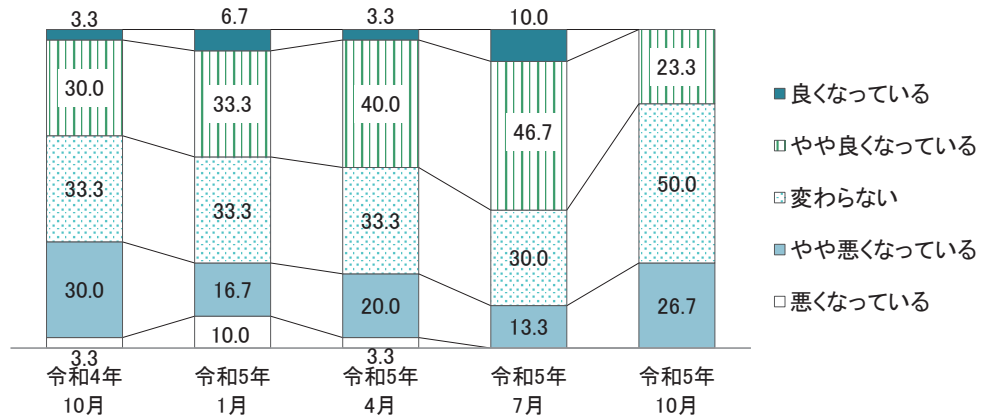
3カ月前と比べた景気の現状判断DI
(県南地区の家計関連の内訳)



②回答別構成比 (%)

	令和4年 10月	令和5年 1月	令和5年 4月	令和5年 7月	令和5年 10月	前期調査 との差
良くなっている	3.3	6.7	3.3	10.0	0.0	▲ 10.0
やや良くなっている	30.0	33.3	40.0	46.7	23.3	▲ 23.4
変わらない	33.3	33.3	33.3	30.0	50.0	20.0
やや悪くなっている	30.0	16.7	20.0	13.3	26.7	13.4
悪くなっている	3.3	10.0	3.3	0.0	0.0	0.0

3カ月前と比べた景気の現状判断 回答別構成比(県南地区)(%)

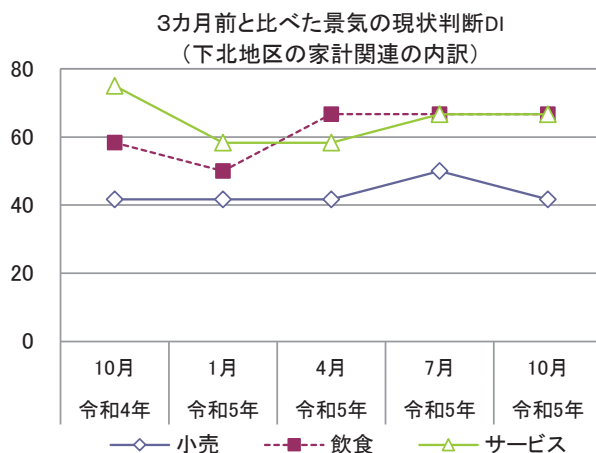
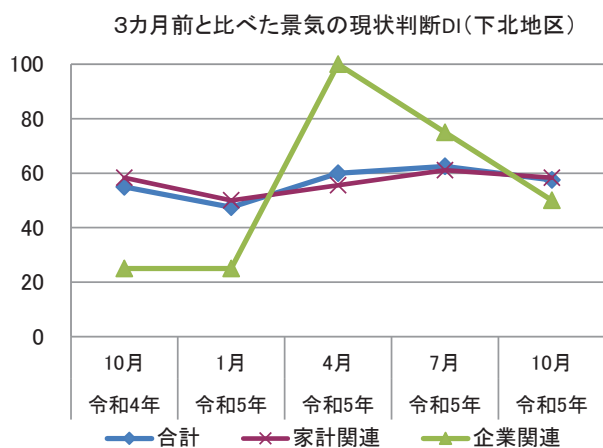


<下北地区> (参考)

①DI

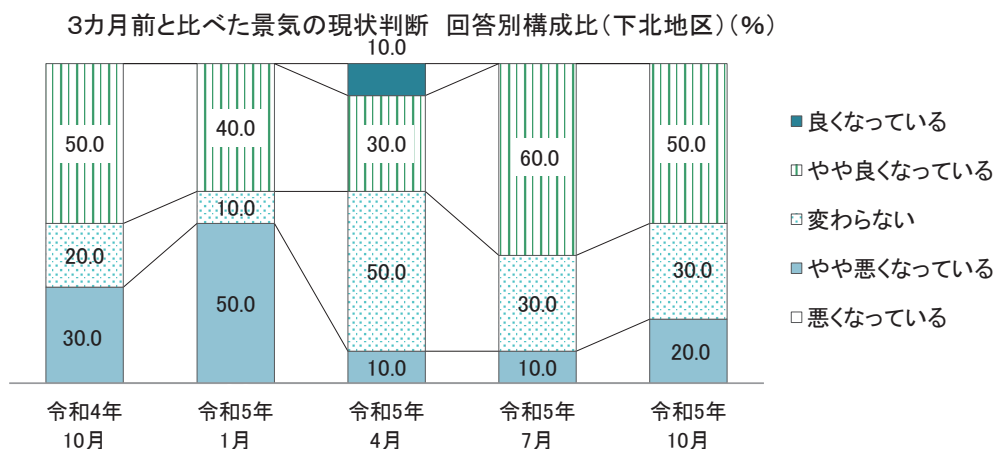
n = 10

	令和4年 10月	令和5年 1月	令和5年 4月	令和5年 7月	令和5年 10月	前期調査 との差
合計	55.0	47.5	60.0	62.5	57.5	▲ 5.0
家計関連	58.3	50.0	55.6	61.1	58.3	▲ 2.8
小売	41.7	41.7	41.7	50.0	41.7	▲ 8.3
飲食	58.3	50.0	66.7	66.7	66.7	0.0
サービス	75.0	58.3	58.3	66.7	66.7	0.0
住宅	-	-	-	-	-	-
企業関連	25.0	25.0	100.0	75.0	50.0	▲ 25.0
雇用関連	-	-	-	-	-	-



②回答別構成比 (%)

	令和4年 10月	令和5年 1月	令和5年 4月	令和5年 7月	令和5年 10月	前期調査 との差
良くなっている	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0
やや良くなっている	50.0	40.0	30.0	60.0	50.0	▲ 10.0
変わらない	20.0	10.0	50.0	30.0	30.0	0.0
やや悪くなっている	30.0	50.0	10.0	10.0	20.0	10.0
悪くなっている	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0



(2) 3カ月後の景気の先行き判断 ※表及びグラフでは各調査期の3カ月後の月で表記

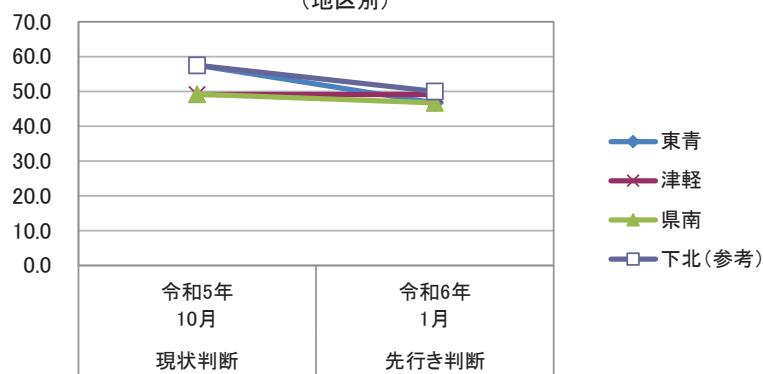
<地区別>

① 今期の現状判断DIと先行き判断DIとの比較

n = 97

	現状判断	先行き判断	差
	令和5年 10月	令和6年 1月	
合計	52.6	47.7	▲ 4.9
東青	57.5	46.7	▲ 10.8
津軽	49.1	49.1	0.0
県南	49.2	46.7	▲ 2.5
下北	57.5	50.0	▲ 7.5

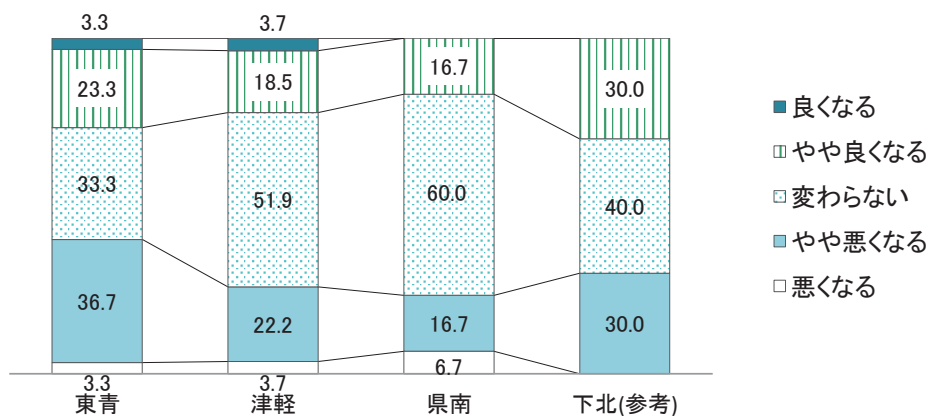
今期の現状判断DIと先行き判断DIとの比較
(地区別)



② 地区別回答構成比 (%)

	東青	津軽	県南	下北(参考)
良くなる	3.3	3.7	0.0	0.0
やや良くなる	23.3	18.5	16.7	30.0
変わらない	33.3	51.9	60.0	40.0
やや悪くなる	36.7	22.2	16.7	30.0
悪くなる	3.3	3.7	6.7	0.0

3カ月後の景気の先行き判断 地区別回答構成比 (%)



<東青地区> ※表及びグラフでは各調査期の3カ月後の月で表記

① D I

n = 30

	令和5年 1月	令和5年 4月	令和5年 7月	令和5年 10月	令和6年 1月	前期調査 との差
合 計	52.6	45.8	66.4	64.2	46.7	▲ 17.5
家計関連	53.4	48.9	68.2	67.4	46.7	▲ 20.7
小売	63.9	63.9	75.0	72.2	55.6	▲ 16.6
飲食	75.0	50.0	75.0	75.0	75.0	0.0
サービス	41.7	38.9	61.1	66.7	30.6	▲ 36.1
住宅	37.5	25.0	50.0	37.5	37.5	0.0
企業関連	56.3	25.0	62.5	56.3	43.8	▲ 12.5
雇用関連	41.7	50.0	58.3	50.0	50.0	0.0

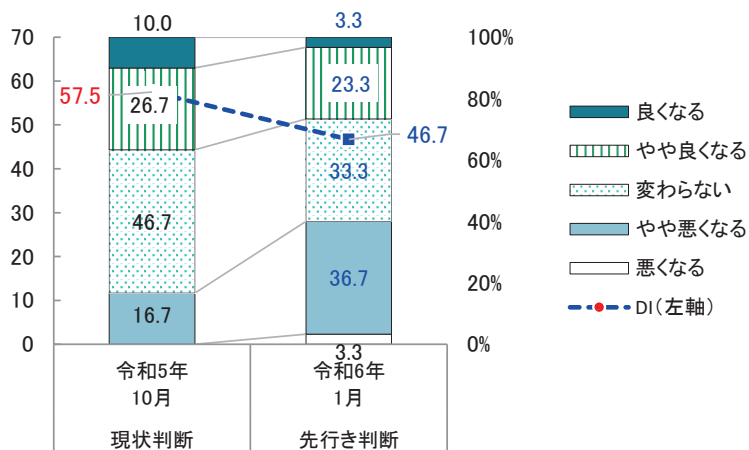
② 今期の現状判断 D I と先行き判断 D I との比較

	現状判断 令和5年 10月	先行き判断 令和6年 1月	差
合 計	57.5	46.7	▲ 10.8
家計関連	58.7	46.7	▲ 12.0
小売	66.7	55.6	▲ 11.1
飲食	50.0	75.0	25.0
サービス	55.6	30.6	▲ 25.0
住宅	50.0	37.5	▲ 12.5
企業関連	56.3	43.8	▲ 12.5
雇用関連	50.0	50.0	0.0

・ 回答別構成比 (%)

	現状判断 令和5年 10月	先行き判断 令和6年 1月	差
良くなる	10.0	3.3	▲ 6.7
やや良くなる	26.7	23.3	▲ 3.4
変わらない	46.7	33.3	▲ 13.4
やや悪くなる	16.7	36.7	20.0
悪くなる	0.0	3.3	3.3

現状判断と先行き判断との
比較(東青・合計)



<津軽地区> ※表及びグラフでは各調査期の3カ月後の月で表記

① D I

n = 27

	令和5年 1月	令和5年 4月	令和5年 7月	令和5年 10月	令和6年 1月	前期調査 との差
合 計	51.7	51.7	64.3	59.3	49.1	▲ 10.2
家計関連	56.8	55.7	68.8	62.5	56.3	▲ 6.2
小売	44.4	50.0	65.6	53.1	59.4	6.3
飲食	83.3	58.3	66.7	75.0	66.7	▲ 8.3
サービス	59.4	62.5	75.0	71.4	50.0	▲ 21.4
住宅	62.5	50.0	62.5	50.0	50.0	0.0
企業関連	29.2	37.5	45.8	45.0	30.0	▲ 15.0
雇用関連	62.5	50.0	75.0	62.5	25.0	▲ 37.5

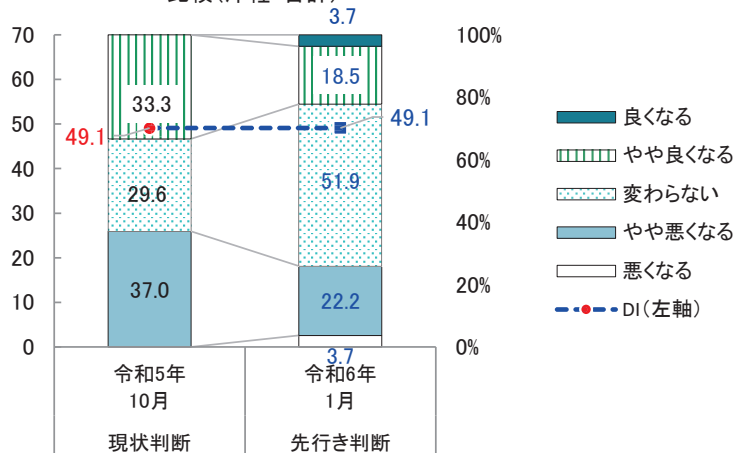
② 今期の現状判断 D I と先行き判断 D I との比較

	現状判断 令和5年 10月	先行き判断 令和6年 1月	差
合 計	49.1	49.1	0.0
家計関連	51.3	56.3	5.0
小売	56.3	59.4	3.1
飲食	58.3	66.7	8.4
サービス	50.0	50.0	0.0
住宅	25.0	50.0	25.0
企業関連	45.0	30.0	▲ 15.0
雇用関連	37.5	25.0	▲ 12.5

・回答別構成比 (%)

	現状判断 令和5年 10月	先行き判断 令和6年 1月	差
良くなる	0.0	3.7	3.7
やや良くなる	33.3	18.5	▲ 14.8
変わらない	29.6	51.9	22.3
やや悪くなる	37.0	22.2	▲ 14.8
悪くなる	0.0	3.7	3.7

現状判断と先行き判断との
比較(津軽・合計)



<県南地区> ※表及びグラフでは各調査期の3カ月後の月で表記

①DI

n = 30

	令和5年 1月	令和5年 4月	令和5年 7月	令和5年 10月	令和6年 1月	前期調査 との差
合 計	45.8	53.3	59.2	60.8	46.7	▲ 14.1
家計関連	45.2	54.8	63.1	64.3	47.6	▲ 16.7
小売	41.7	50.0	52.8	63.9	38.9	▲ 25.0
飲食	58.3	50.0	91.7	66.7	58.3	▲ 8.4
サービス	53.6	64.3	64.3	67.9	60.7	▲ 7.2
住宅	12.5	50.0	62.5	50.0	25.0	▲ 25.0
企業関連	42.9	46.4	46.4	50.0	46.4	▲ 3.6
雇用関連	62.5	62.5	62.5	62.5	37.5	▲ 25.0

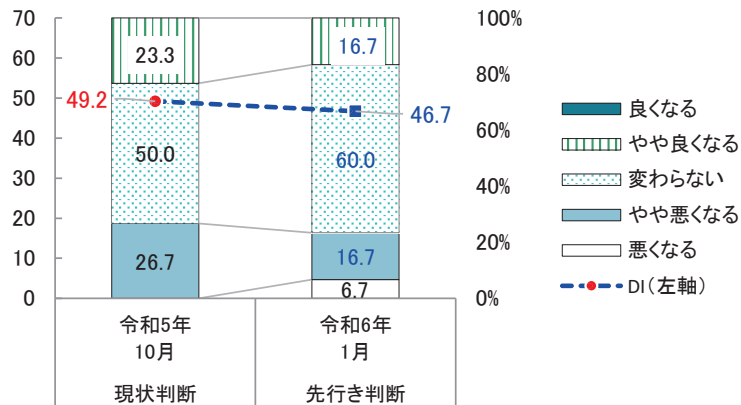
②今期の現状判断DIと先行き判断DIとの比較

	現状判断 令和5年 10月	先行き判断 令和6年 1月	差
合 計	49.2	46.7	▲ 2.5
家計関連	46.4	47.6	1.2
小売	47.2	38.9	▲ 8.3
飲食	50.0	58.3	8.3
サービス	50.0	60.7	10.7
住宅	25.0	25.0	0.0
企業関連	57.1	46.4	▲ 10.7
雇用関連	50.0	37.5	▲ 12.5

・回答別構成比 (%)

	現状判断 令和5年 10月	先行き判断 令和6年 1月	差
良くなる	0.0	0.0	0.0
やや良くなる	23.3	16.7	▲ 6.6
変わらない	50.0	60.0	10.0
やや悪くなる	26.7	16.7	▲ 10.0
悪くなる	0.0	6.7	6.7

現状判断と先行き判断との
比較(県南・合計)



<下北地区> (参考) ※表及びグラフでは各調査期の3カ月後の月で表記

① D I

n = 10

	令和5年 1月	令和5年 4月	令和5年 7月	令和5年 10月	令和6年 1月	前期調査 との差
合 計	40.0	47.5	55.0	57.5	50.0	▲ 7.5
家計関連	41.7	50.0	50.0	55.6	50.0	▲ 5.6
小売	8.3	41.7	41.7	33.3	41.7	8.4
飲食	66.7	50.0	58.3	66.7	50.0	▲ 16.7
サービス	50.0	58.3	50.0	66.7	58.3	▲ 8.4
住宅	-	-	-	-	-	-
企業関連	25.0	25.0	100.0	75.0	50.0	▲ 25.0
雇用関連	-	-	-	-	-	-

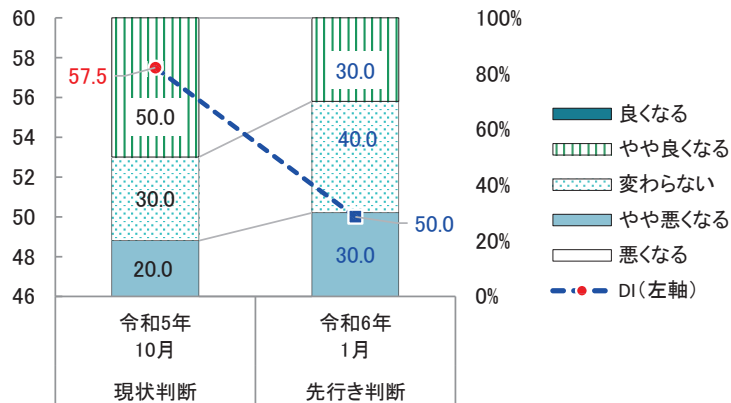
② 今期の現状判断 D I と先行き判断 D I との比較

	現状判断 令和5年 10月	先行き判断 令和6年 1月	差
合 計	57.5	50.0	▲ 7.5
家計関連	58.3	50.0	▲ 8.3
小売	41.7	41.7	0.0
飲食	66.7	50.0	▲ 16.7
サービス	66.7	58.3	▲ 8.4
住宅	-	-	-
企業関連	50.0	50.0	0.0
雇用関連	-	-	-

・回答別構成比 (%)

	現状判断 令和5年 10月	先行き判断 令和6年 1月	差
良くなる	0.0	0.0	0.0
やや良くなる	50.0	30.0	▲ 20.0
変わらない	30.0	40.0	10.0
やや悪くなる	20.0	30.0	10.0
悪くなる	0.0	0.0	0.0

現状判断と先行き判断との
比較(下北・合計)



4. 判断理由

(1) 景気の現状判断理由

現状	分野	地区	業種	理由
良くなっている	家計	東青	一般小売店	春以降の人流の活性化が秋も続いている。
			観光名所等	ねぶた祭りが通常開催された。ねぶた祭りからお盆期間にかけての入場者数が特に多かった。概ね個人のお客様で団体旅行は全体の13%。
			卸売業	観光地、飲食店が回復し、ねぶた祭り、クルーズ船等人流がかなりあったため物(商品=お金)が動いた。
やや良くなっている	家計	東青	百貨店・スーパー	人流の回復、高額品の販売頻度増。
			百貨店・スーパー	以前のようにコロナの増減に人の動きが影響されなくなってきたため。お盆の帰省、夏祭りによる人の動きもコロナ前に戻りつつあることで経済が回っている感じがするため。
			一般飲食店	ねぶた祭りがあった8月は人が動きコロナも騒がれたけれども景気は上向きでした。9月になって少し落ち着いた感じはあるののだと思いますが、長く続いたコロナ禍から見ると断然人も動くようになっていると実感しています。
			旅行代理店	ツアーのお客様も増えてきて動きが活発になってきた。
		津軽	一般飲食店	県外や国外からのお客様が aumentando。
			商店街	観光客らしき人の量が違う。
			旅行代理店	業界全体的に仕事は増えていると感じられる。
			家電量販店	猛暑の影響により9月度のエアコン販売が平年を上回った。電力会社及び青森県の省エネ買替キャンペーンも追い風となった。
			一般小売店	7-9月の4半期は少し前年割れでしたが、9月が急回復したため、そのように回答しました。
		県南	観光型ホテル・旅館	お客様の予約数が増加している。
			家電量販店	7月20日梅雨明けから8月いっぱい、気温上昇が続き、季節商品(エアコン・扇風機等)が好調。
			娯楽業	物価上昇で騒がれているが、来店客数は増えている。
		下北	レストラン	売上が少しずつ伸びてきている。
			タクシー	旅行に行く人・来る人も多くなっている。食品等の値上げが続いていても特に買い控えをするニュースもない。ふるさと納税に支払金額が増えている。
			都市型ホテル	宿泊は満室の日も多く、コロナ禍以前よりも増えている。宴会も7割位までは回復し、婚礼も徐々にではあるが増えています。ただ規模も件数も少なく、以前のように戻らないと思う。
企業	東青	広告・デザイン	リアルイベントの開催、お祭りの実施等で、生活者動向がコロナ前に戻っていると感じている。その行動復活に対し、民間各社がビジネスチャンスをしっかり捉えている。	
		経営コンサルタント	円安を要因に原材料価格の高騰は続いており、中国による水産物の輸入停止を受け水産加工の製造業は悪化している一方、新型コロナの影響が緩和し、宿泊・飲食サービスなどの業種は改善してきている。また、暑さが続いたことから飲料を扱う業種は好調であった。全体的にみると以前に比べ景気はやや良くなっている。	

現状	分野	地区	業種	理由
やや良くなっている	企業	津軽	電気機械製造	新機種（スマートフォン）が発売されたため。
		県南	飲料品製造	コロナ以前までには戻っていないが人の動きが正常化、観光客も増え、地元のイベントなども活性化している。いつもの大人数の会合等も普通に行われるようになり商品の動きも良くなった。
			経営コンサルタント	人流の増加で管内中心街の飲食店の売上げ増加の継続、紅葉シーズンを控え、ホテルの予約状況が好調である。
			建設	コロナも第5類へ移行となり、各種イベントや祭りの再開、帰省・旅行など人の往来も活発になったことで外食産業も持ち直し、3ヶ月前と比較すると回復傾向。
	雇用	県南	新聞社求人広告	コロナが5類に引き下がったことで人を集めるイベントが復活し、その運営を任されることが多くなったため。
変わらない	家計	東青	衣料専門店	コロナ禍明けの前の調査では上向き加減ではあったが、猛暑の影響がコロナ禍にあった昨年対比数パーセントアップ位では良くなっていると言えない。
			タクシー	今年の冬がどのような冬になるのか未だに想像できないです。食料品や灯油・ガソリンなどの燃料代の物価高がどのようなカーブを描いていくのか、それに対して政府がどのような対処をとるのかによっても事は大きく変化してしまうと思っているからです。
			都市型ホテル	宿泊については県外からのレジャー、出張利用が堅調ではあるが、会議、宴会需要については想定より戻りが弱い。
			観光型ホテル・旅館	夏からの好調は現在でも続いている。外国人客も個人中心に引き続き多くみられる。
			家電量販店	お盆期間の帰省ラッシュが昨年よりも増加傾向にあったように、コロナ明けによる人流回復は見受けられ、主に旅行・観光・各種イベント等の側面において経済活動は活発化しているように思われます。ただ一方ではガソリン代や日用消耗品など、毎日の生活に欠かせない品目の価格の高止まりが続いており、節約志向は依然として継続。不要不急の買い物は控える傾向が続いているように見受けられるため、景況感としましては概ね変化なしと判断いたします。
			設計事務所	景況感に影響を及ぼす直接的な出来事は起きていない様に見受けられましたが、社会全体に重しが乗っかっている閉塞感は相変わらず感じます。
			娯楽業	相変わらず横ばい状態です。
			娯楽業	ここ3ヶ月の売上状況が大きく変動していないため。
			商店街	5月のコロナ5類移行もあり、お客様の動きは引き続き活発なように見えます。ねぶた祭りの時期も、県外客を含めお客様の入れ込みが多かったと周囲からも聞いています。
			スナック	私達飲食業(スナック)はどうして悪いのか見当がつかません。
		津軽	観光名所等	一年前（コロナ禍）の状況と比べると景気は上向いているが、3か月前から見るとさほど変化は見られない。理由としてはインバウンドによるクルーズ船客や成田到着便・羽田便からの来訪者に変化が見られないため。
			観光型ホテル・旅館	景気は依然として変わらない状況が続いている。
			乗用車販売	物価上昇に伴う賃上げが不足している。

現状	分野	地区	業種	理由
変わらない	家計	県南	コンビニ	物の値段が上がっているだけで、客数は減っているため。
			旅行代理店	昨年から海外旅行や修学旅行が復活している。
			百貨店・スーパー	インフレの恩恵により売上は表面的には伸びているが、光熱費を始めとした経費負担が大きいのしかかり、景気が好転したという段階には達していないと感じる。
			スナック	平日が悪く、週末のみが良いから。タクシーが少なすぎて対応出来ない。
		県南	レストラン	出張のお客様、観光のお客様は増えているが、地元のお客様が減ってきている。
			百貨店・スーパー	上向きのものであれば、下向きのももあり、トータルで±0か。最低賃金引上げによる賃上げ、物品の値上げ。
			タクシー	夏場の需要（観光・帰省等での売上増）を期待していたが、想定したほどではなかった。
			一般飲食店	良い時と、悪い時があり平均で見るととんとんかな～。色々なイベントが氾濫して、当業種にはメリットがない。又、人出不足のため営業を縮小せざるを得ない。
			卸売業	一般の方について、酒税増税前の買い込み需要があると予想していたが、買い控えが多く売り上げが伸び悩んだ。代わりに業務店の方の売り上げは伸びている。
			コンビニ	お客様の買い物点数が変わっていないように思われる。
			商店街	電気代やガソリン等の油関係の先行きが見えないから。
			美容院	物価高と言われているが、今のところ変らない来店状況です。
			乗用車販売	夏場の異常気象やコロナ第9波の影響も落ち着きを取り戻し、通常のイベント開催や飲食を伴う会合の頻度も上がってきており、景気の上向きに好影響を与えている。
	下北	ガソリンスタンド	コロナ感染が落ち着き、飲み会が増え、結婚式も出始めて来たが、物価の高騰でプラスマイナス0といったところではないでしょうか！？	
	企業	東青	建設	工事量に変化はありませんが、原価高騰と人手不足が利益を圧迫しています。
			津軽	食料品製造
		県南	紙・パルプ製造	人の往来等は3ヶ月前とそれほど変化なし。
			広告・デザイン	全国規模の企業の広告に比べて、地方における広告は増えてるように感じない。
			電気機械製造	コロナ禍が収まり人の動きが出てきて新しい案件が動き出したりしているものの、人件費高・物価高・人手不足で、景気や人々の生活は良くなっているとは言い難い。
		下北	食料品製造	原料の値上り等による価格の値上げによって、来客はあるものの購入額は低めかと感じます。
雇用	東青	新聞社求人広告	物価の上昇、燃料費の高止まりによる生活費の上昇で、購買意欲を抑えさせたままの状態が続いている。	
やや悪くなっている	家計	東青	美容院	今年の夏は大変暑かったのでしょうか。外出するのをやめていたようです。

現状	分野	地区	業種	理由
やや悪くなっている	家計	津軽	レストラン	夏の異常な暑さが、。この業種はあまり暑いと売上が下がるし、みなさん冷たくてサッパリした料理に行ってしまうのでは？
			美容院	値上げラッシュに財布の口は一層かたい。何処かを節約しながら身構えている様だ。
			設計事務所	住宅の設計依頼件数が少ないです。住宅着工件数も今年は例年比で減となっているようです。住宅以外の設計物件数は昨年と同様ですが・・・。
			都市型ホテル	キャンペーン終了に伴い国内の観光需要の低下による宿泊減。
			住宅建設販売	新築工事の受注が下がっています。金融機関からの借入れも所得水準に達しないことから思うような金額（予算立て）ができないから。
			衣料専門店	インバウンドなど。物価高。
		県南	ガソリンスタンド	コロナ感染症の5類移行に伴い、人流が増加し一定の景気の回復傾向は感じられるが、エネルギー、食品、その他全般、値上げの動きが急であり、そのことを上回る可処分所得の増加とはなっていないと感じられるから。
			観光名所等	今年の夏は猛暑のためか、製品(花等)に影響があり、売上が減少した。
			住宅建設販売	物価高騰や金利上昇懸念から住宅購入者の減少が続いている。
			衣料専門店	光熱費の負担上昇、食品をはじめとする値上げ、賃金は変わらない。 (※地方の場合)
			一般小売店	アフターコロナのプラス要因よりも、物価高(特にガソリン・食料品)に起因するマイナス要因の方が勝っている。
			設計事務所	気候や、世界情勢の影響で物価高は深刻な上、増税で消費は落ち込んでいる。
	下北	コンビニ	青森県と当市、日本から見限られていると感じる。	
	企業	東青	食料品製造	海域の水温関係でしょうか。水産物が非常に少ないです。
		津軽	経営コンサルタント	暑さ焼けによる農産物（特にりんご）の不作の声をよく聞く。収穫時期を迎えた農産物がどの程度影響を受けているか、どの程度の収入になるかで他の業種の売り上げに響いてくるか見守りたい。大型ショッピングセンターも平日はがらんとしているし、土日等も駐車場の台数は心なしか少なく人出も少ないように感じる。9月に中心街を1日歩行者天国にして開催されたイベントでも、野菜の安売りコーナーは盛況だったが古着や日用雑貨のコーナーは昨年より売れ行きが悪かった。財布のひもが固くなっているような感じがしました。
		県南	食料品製造	日用品の値上げ。
	雇用	東青	求人情報誌	求人広告へのご出稿企業で、予算計画の見直し等による取りやめが秋になり増加している。一部の企業では、コロナ助成金の返済に充てているとのこと。求人広告に限らず、返済のために投資を控える企業が増えていのではないかと感じる。
		津軽	新聞社求人広告	寒さや冬場を前に消費者の節約、節約志向が目立つ。食料品の値上げに加え、燃料費の高騰・高止まりが暮らしの厳しさに拍車をかけている。
県南		人材派遣	観光業等、需要が多い（景気の良い）業種業界がある反面、原材料・燃料価格高騰によって厳しい業界もより多く見受けるため。	

(2) 景気の先行き判断理由

先行き	分野	地区	業種	理由
良くなる	家計	東青	商店街	お客様の表情も変わらず明るく、商店街内の人気店に復活した行列も勢いはそのままを保っており、景気回復の流れは続きそうに感じております。ただし、光熱費、物価高騰の影響によるお客様の購買意欲の低下が、常に、景気停滞への不安材料となっています。
		津軽	商店街	雪灯籠やイベントでの集客を信じて。
やや良くなる	家計	東青	一般飲食店	コロナ禍で失われた色んな機会を取り戻そうと思っている人は多いのだと思います。これからの会社や学校などのイベントの打ち上げや、忘年会など今年は何年ぶりかで実施しようと思っている方も多いように思います。
			レストラン	毎年のことだが、これから年末を迎え、忙しくなってくると思う。
			卸売業	7月・8月同様の動きが年末年始も発生すると思う。
			美容院	季候も良くなったので少しは良くなると思います。
			家電量販店	国や地方自治体による補助、貴県で実施しておられます家電買替促進のキャンペーンや、そのほか電気料金の値下げなど、物価高騰下でのさまざまな施策もあり、節約志向は依然として続きつつも、今後の見通し（購買行動の傾向）としましては、上向きとなることが予測されます。
			スナック	期待してます。(色々行事が有りますからね。)
		津軽	一般小売店	コロナもあまり気にしなくなってきたようで、マスクをかけない人が多くなってきた。化粧品の使用量の拡大につながると思う。
			レストラン	コロナが落ちついてきたから。
			家電量販店	物価の高止まり感、コロナ5類以降後のサービス業消費の持ち直しなど、消費は緩やかに回復し、なによりも賃金の上昇が今後の消費の後押しを確定するのではと考えます。
		県南	旅行代理店	スポーツの大会や会議などの規模が大きくなっていくと思う。
			美容院	物価高で賢い買い方に慣れ、賃金上昇の分も考えると生活の中ではあまりマイナスになりにくいのではと思う。
			一般飲食店	年末、年始があるので活気あふれ良い条件があり、あとは、気候の変動が著しく異常にならなければ良くなると感じています。
		下北	スナック	年末は忙しくなってほしいです。
			タクシー	10月に最低賃金が上がればそれなりに良くなる。
			百貨店・スーパー	外出等の自粛、規制が無くなったため自由に外出が可能になり、観光、旅行事業が活発化し人の流入増で景気回復。
		企業	東青	広告・デザイン
県南	飲料品製造		世間的な値上げの風潮で抑制方向のストレスも多少あるが、業界とすれば最盛期に向かっての動きを予測する。年末までの会合、飲食店の盛り上がりを楽しみたい。	
変わらない	家計	東青	一般小売店	冬期に入り人流は多少抑制されるが、中国からの観光客含め、インバウンドに期待できる。
		百貨店・スーパー	冬を迎える中、一旦回復基調が落ち着くと考えるため。	

先行き	分野	地区	業種	理由
変わらない	家計	東青	衣料専門店	コロナ明け各地の祭りごと、各種会合、宴会、披露宴などは活発化しているが、商店街は世相通りではない。3年間の抑制とモノの普及で消費欲が落ち込んでいるのかも、消費がモノよりもサービス、事へ向いているのかも。
			設計事務所	ガソリン価格もやや高止まり、円安もこの先、続く様子に建築資材の価格に限らず、職人の確保等、問題は山済みで厳しい状況といえるのかも。住宅建設費の大きな負担は痛みを感じます。
			観光名所等	雪が降るまでは現状が続くと思う。冬期間は外国人観光客に期待。
			百貨店・スーパー	食品の値上げは続きますが、必要なものは購入する傾向は継続すると思います。また、これから冬を迎え、積雪量、灯油代の価格次第では大きく消費に影響してきます。
		津軽	設計事務所	猛暑で農作物の不作等、影響が大きいため農業所得は低くなるのではと思います。加えて諸物価の値上げもあり建築計画の先送りもあるのでは？
			観光型ホテル・旅館	3年先、10年先を見据えた政策が必要。
			観光名所等	今後の予約状況に特段変化が見られないため。台湾からの定期便、中国本土からのチャーター便・定期便の見通しが立っていないため。
			旅行代理店	全てが価格が上がってきてるので、今よりとなると慎重に考えざるを得ない。
			コンビニ	このまま景気は良くなる所がないと思う。海外からの旅行客に期待したい。
			乗用車販売	好転する兆しが無い。
			美容院	良くなると判断する材料が少ない。
			百貨店・スーパー	最低賃金の変更にともない消費増を期待。
		県南	住宅建設販売	これ以上悪くなることは、予想されないが、新築工事は大幅に減ると思う。
			衣料専門店	光熱費の負担上昇、食品をはじめとする値上げ、賃金は変わらない。 (※地方の場合)
			タクシー	今よりは悪くはならないと思うが、物価高騰による、消費者の消費を抑える気持ちから、すぐに今後の景気が良くなるとは思えない。
			卸売業	一般売上が大体横ばいの為。また、ギフト需要も減ってきているため売り上げが大きく変わらないと予想される。
			レストラン	地元のお客様が減ってきているため、このままだと3ヶ月先の12月、1月は変わらないのではないかと不安に思う。
			スナック	今まで3ヶ月も変わらないから。
			観光名所等	7月～9月まで高温日数が長かったためか、りんごの出来が悪く今後の売上に期待できない。
			百貨店・スーパー	今の状況はまだまだ続くと思われる。激的に収入が増えているわけではなく支出だけが増えている。売上、客単価は上がったとしても、客数、買上点数は下がっている状況が続くと思われる。
			家電量販店	食材の値上げ、ガソリンの値上げなど消費行動の低下は続くと思われる。
ガソリンスタンド	コロナ感染症治療の自己負担、インボイス制度開始等々、個人消費、企業の設備投資等、積極的になれる材料がないこと。			

先行き	分野	地区	業種	理由
変わらない	家計	県南	一般小売店	ロシア・ウクライナ問題が終息しなければ、世界的な原油・食品高は解決しない。
			乗用車販売	受注している車両も順調に入りはじめ、収益的には問題がありませんが、ガソリン含む燃料価格の高止まり、食料品の更なる値上げも続いており、お客様の買い控えが起きる可能性を含んでいる。
			商店街	消費者にとってメリットとなるものが見えないから。
		下北	都市型ホテル	これから宿泊は閑散期に入り、客数が減少するのは必然。幸い当ホテルは観光客の割合がそれほど多くなく、ダメージは少なく済むと思う。又、年末・年始の宴会も大幅に増えるとも思われない。
			ガソリンスタンド	忘年会などコロナ禍前の様に戻りつつあると思いますが、物価の高騰で押さえるところは押さえてくるのではないのでしょうか？
			一般飲食店	これからの3カ月は冬に入るし、灯油もあまり安くなっていないし、物価だって上がりっぱなしで安くなるような気配もないし。
	企業	津軽	電気機械製造	現時点では新機種発売後の状況が見えていないため。
		県南	建設	2022年から2023年10月で既に4回目の値上げが断行された。今秋10月から4600以上もの値上げが行われ、度重なる経費節減対策で年々家庭の生活水準が低下してきている。今夏は全国的に高温、降雨不足などの異常気象に見舞われ、農作物が影響を受けて品不足や価格高騰を招いている。また、処理水問題の風評被害で水産業も大きなダメージを受けていて、輸出できないことで漁の取りやめの影響も出ている。私たちは高いビールを買えないから第3のビールに切り替えていたのに、10月にはビールの税率を下げた第3のビールの増税という愚策を打ち出してきて、大義名分では税負担の公正化と謳っているが、ただ単に多く飲まれている方の第3のビールをを増税し、便乗値上げで国の税収UPを図っただけ。
			紙・パルプ製造	新型コロナウイルス感染症増への警戒感やインフルエンザウイルスの発症等への対応で大きな回復は見込めない。
			経営コンサルタント	売上げは、増加しているが、エネルギー原材料価格が高止まりしており、利益がとれない状況が継続している。
			電気機械製造	欧州の戦争や電気自動車シフトの停滞、中国の経済停滞、世界的なインフレに加え日本は増税ですから、人の動きが戻ってきた割には先の動きは厳しい状況です。
		下北	食料品製造	よくわからないのですが、このまま、物価の値上げが続くのであれば、今の状況のままか、やや悪くなるのか。そうならないよう努力中です。
		雇用	東青	新聞社求人広告
	人材派遣			現状人手不足で景気の上向きがあったが、物価高騰で経費が掛かるため、人件費に回す金額が少なくなりそうな見込みがあるため。
	求人情報誌			将来景気が上向く材料が、この仕事をしている限りでは見受けられないため。また社会情勢の改善や異常な円安が解消されるまでは、悪くなった景気がもとに戻るまでの回復は見込めないのではないかと感じる。
県南	新聞社求人広告		冬場で屋外のイベントは少なくなるため。	
やや悪くなる	家計	東青	コンビニ	物価や燃料が高いのが止まらないため。
			旅行代理店	シーズンオフになり旅行の足が止まるか不安。

先行き	分野	地区	業種	理由	
やや悪くなる	家計	東青	娯楽業	季節的要因で冬に向かって暖房費や生活関連品の物価上昇で遊興費が抑えられると思います。	
			観光型ホテル・旅館	冬季は現在までの反動を多少予想すべきかと考えており、特に人手不足から休館日を増やすことによる機会損失をこれまで以上に考慮しなければならぬ。	
			ガソリンスタンド	物価は高くなる一方だが、賃金は変わらない。	
			娯楽業	最近の売上状況としては、大きく変動していないが、昨今の物価高を考えると景気は良くはならないと考えるため。	
			タクシー	夏場使用しないで済んでいた灯油代のいかんと降雪の具合によっては余計な出費が増えることで「やや悪くなる」可能性が排除できないからです。	
		津軽	都市型ホテル	今後は冬期になる事から、例年どおりの低下になる。又、国際線の定期便の再開も不透明なため、先行きが見通せないため。	
			衣料専門店	物価高騰で買物を控える。	
		県南	住宅建設販売	物価上昇の影響とこれから冬場になるので燃料費（電気・灯油）などの高騰が影響し消費活動が停滞すると思います。	
			設計事務所	ネガティブなニュースが多すぎるため。	
		下北	レストラン	物価が高くなっているため。	
	コンビニ		年金生活者の金のなさはひどい状況になっている。年金前には玉で買いにくる。		
	企業	東青	経営コンサルタント	物価高が収束する目途がなく、企業側は景気回復の実感が乏しい。倒産件数は増えており、物価高に伴う販売不振が原因の主なものである。今後、資金繰りの圧迫による倒産が増えることは十分に考えられる。さらに、県内の主要産業である米作りやリンゴ生産は猛暑による影響で品質低下、収穫量減が懸念され景況に大きく影響が出ると思われる。	
			食料品製造	一層の水産物離れが進んでいるように感じます。	
		津軽	経営コンサルタント	10月からの最低賃金の上昇を受けて全体的に賃金は上がることになるが、それ以上に食料品等の値上げ、特にこれから灯油・ガソリン代の価格高騰は家計にダメージを与えることとなるでしょう。	
			食料品製造	これから冬を迎え光熱費等がさらに生活を圧迫する。	
		県南	広告・デザイン	コロナ禍でコロナ融資を受けた企業の返済が始まっていること。売上がそれに準じて上がっていれば良いが、売上がまだまだ厳しい企業は返済だけでも大変だと思われる。	
			食料品製造	物価上昇が続くが所得は上がらないため。	
		雇用	津軽	新聞社求人広告	景気が上向くような材料が見当たらない。
			県南	人材派遣	材原料・燃料価格高騰によって厳しい業界が、解決策を見出していないように思う。また年末に向けて人材不足（採用難）は一層加速していくと感じる。
	悪くなる	家計	東青	都市型ホテル	冬期にビジネス利用が減少。秋からの再開を期待していた青森台湾の定期便再開も動きがみられないことからインバウンドの需要も想定ほどの戻りが期待できない。
コンビニ				今後灯油代の負担が発生するので家計には厳しいと思われる。	
県南			百貨店・スーパー	インボイス制度のスタートによるもの。現場は、大混乱してます。	

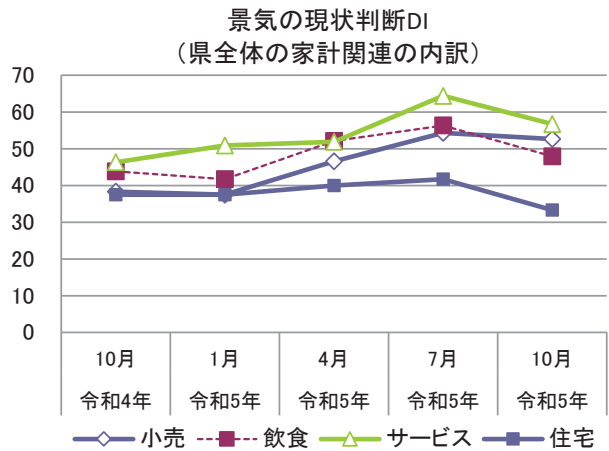
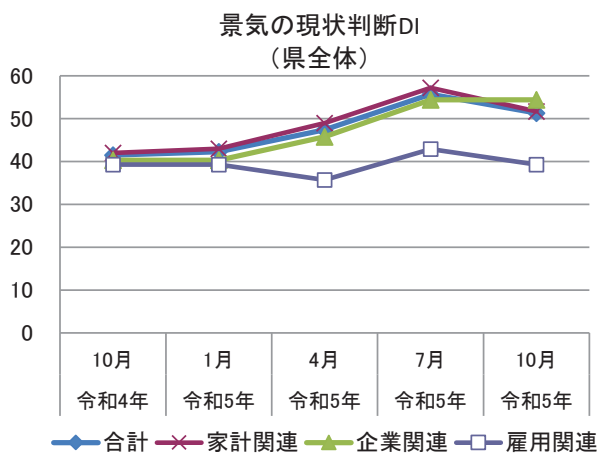
5. 参考

(参考1) 景気の現状判断

① D I

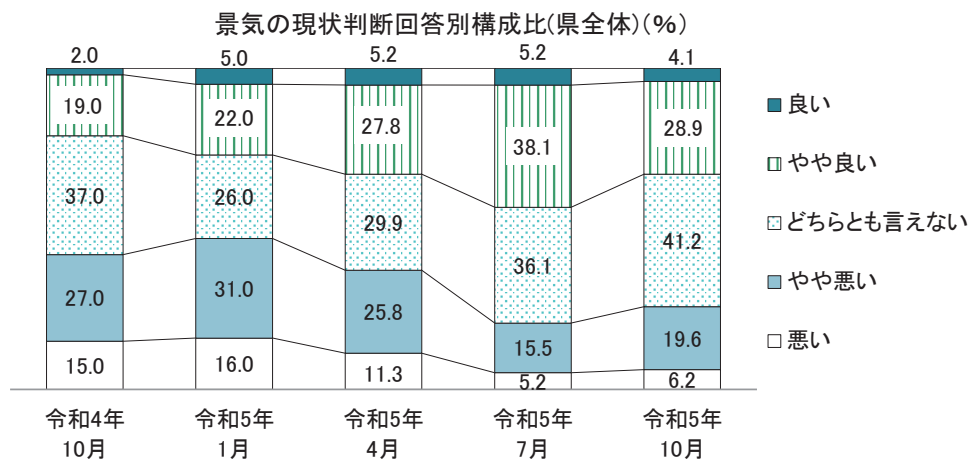
n = 97

	令和4年 10月	令和5年 1月	令和5年 4月	令和5年 7月	令和5年 10月	前期調査 との差
合計	41.5	42.3	47.4	55.7	51.3	▲ 4.4
家計関連	42.0	43.0	49.0	57.2	51.7	▲ 5.5
小売	38.3	37.5	46.6	54.3	52.6	▲ 1.7
飲食	43.8	41.7	52.1	56.3	47.9	▲ 8.4
サービス	46.3	50.9	51.9	64.4	56.7	▲ 7.7
住宅	37.5	37.5	40.0	41.7	33.3	▲ 8.4
企業関連	40.3	40.3	45.8	54.4	54.4	0.0
雇用関連	39.3	39.3	35.7	42.9	39.3	▲ 3.6



② 回答別構成比 (%)

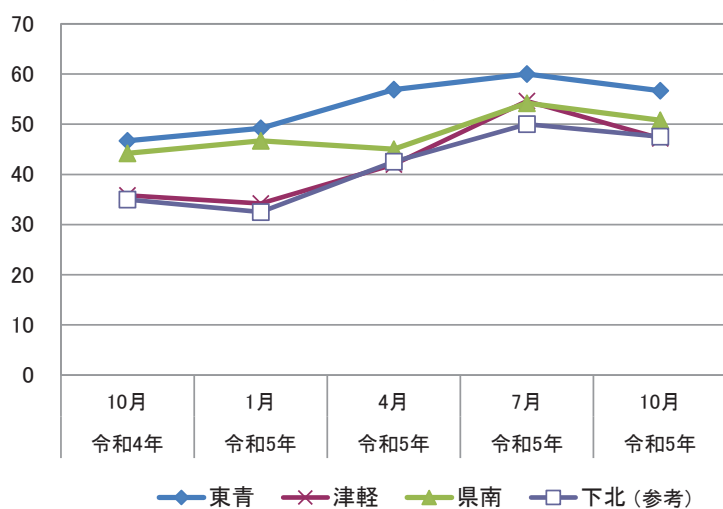
	令和4年 10月	令和5年 1月	令和5年 4月	令和5年 7月	令和5年 10月	前期調査 との差
良い	2.0	5.0	5.2	5.2	4.1	▲ 1.1
やや良い	19.0	22.0	27.8	38.1	28.9	▲ 9.2
どちらとも言えない	37.0	26.0	29.9	36.1	41.2	5.1
やや悪い	27.0	31.0	25.8	15.5	19.6	4.1
悪い	15.0	16.0	11.3	5.2	6.2	1.0



③地区別DI

	令和4年 10月	令和5年 1月	令和5年 4月	令和5年 7月	令和5年 10月	前期調査 との差
合 計	41.5	42.3	47.4	55.7	51.3	▲ 4.4
東青	46.7	49.2	56.9	60.0	56.7	▲ 3.3
津軽	35.8	34.2	42.0	54.6	47.2	▲ 7.4
県南	44.2	46.7	45.0	54.2	50.8	▲ 3.4
下北	35.0	32.5	42.5	50.0	47.5	▲ 2.5

景気の現状判断DI
(地区別)



(参考2) その他自由意見

分野	地区	業種	自由意見
家計	東青	衣料専門店	商店街の活性化には夜間人口、刺激、食と基幹店が必要と言われてきた。先日当市で全国の市長、市議ら1800名が参加で開催された「全国都市問題会議」で魅力的な都市づくりには「文化芸術・スポーツが生み出す都市の魅力と発展」がテーマであったとある。活性化報道で「文化・民芸・アート・音楽・スポーツ」のワードが散見する、青森県はそれに本州最北端の景観と一次産業、世界遺産、国立公園、美術館の五館連携があり、資源が豊富、どう生かすかである。
		一般小売店	長期にわたる円安傾向が、海外経由でのモノづくりに影響を与え続けている。
		商店街	暑い夏が続いていましたが、今年の猛暑によるエアコン購入者の状況を見るとこの北国青森でも、もはや冷房対応機器が家電としての生活必需品に入ったのだなという感を持ちました。
		一般飲食店	物価が上がっているのに、インボイスの始まりなど色々な変化がありますが、日本は回復に向かっているのだと思います。もちろんきちんと対応できることが条件だと思いますが社会全体として良くなっていくと思います。
		レストラン	青森で感じたことのない暑さでした。キッチンにいても、体重は5Kgぐらい落ちるし(笑)。来年の夏もこうなると思うと「ゾッ」とします。これから年末にかけて忙しくなると思うが、輸入食材が入手しにくく苦戦しています。9月10日の週末は管内での催し物がありすぎて街に人がいなくなる状態でした。
		スナック	それこそ知事さんに期待しています。一言でいいですから職員さんにお話してほしいです。若い店だけが店ではないと思います。
		観光型ホテル・旅館	人不足は深刻であり、賃上げのペースを加速させなければ採用難は解消できない。あわせて、マルチタスクを本格化させたことにより少ない人数での運営にシフトせざるを得ず、DX等の活用による運営システムの大幅な更新準備を進めている。
		観光名所等	コロナウイルスが5類に移行して以来（現状はその前から）、来館者が増加、前年比50%増となっている。
	東青	タクシー	大手スーパーなどの昼間の主要人口が物を買わない高齢者の時間つぶしのたまり場と化しており、夕方からの買い物客の数は極端に少なくなってきた感があります。これでは撤退の噂が流れても仕方がないかと感じてしまいます。外食店舗は一部を除きつまらないチェーン店ばかりで、しかも高価で行くだけ損という印象が拭いきれません。
	東青	美容院	美容業としては、3ヶ月サイクルなのでコロナでなければ大丈夫でしょうが物価とかいろいろな物が上がったりなかったりで主婦は大変だと思います。
	津軽	コンビニ	少しずつではありますが、人の流れはあります。でも我々の小売業まで届いてない。
		衣料専門店	飲食店の価格が高騰してる。
		一般小売店	金曜日・土曜日の夕方から向かいにある立体駐車場が混みだします。飲み会や食事が多くなっているものと思われます。
		商店街	学生さんたちも飲み屋街に出るようになったと思うが、9月いっぱい夏休みが終わるので少し経済が回らなくなりそうではある。
観光名所等		マラソン大会が無事終了。当市では秋のまつりが開催予定。冬の桜のライトアップが今年も12/1から実施予定。映画の影響か、当施設で津軽塗体験希望者が多く見受けられる。今年は猛暑の影響でりんごの収量が減る恐れがあり、価格が上がるといわれている。当市スーパーの全店閉店。深刻な人手不足。	
美容院		駅や空港、観光地には人も戻ってきた様に感じるが経済を大きく動かすまででは無いような気がする。	
住宅建設販売		新築工事にありつけない方々がリフォーム工事へ切り替えるような雰囲気です。	
県南	商店街	旅行者は増加しているように感じます。	

分野	地区	業種	自由意見
家計	県南	タクシー	前回の調査から特段、変わった動きはないような気がする。
		美容院	少子高齢化の影響で働き手がなくなっているのが目につきます。主婦の扶養控除の給料制限問題も早く決まってほしいです。
		住宅建設販売	インボイス制度がスタート（前準備含む）し、生産性の無い事務負担の増加により若手経理社員の離職があり非常に困っています。免税事業者への対応などがクローズアップされているが、申告納税制度での複雑すぎる納税の仕組みを改善して欲しいと思います。
	下北	タクシー	当市の市議会選で、ポスターも貼らず、選挙カーも走らせずにSNSの活動だけで当選した方がいました。世の中の変化は予想できません。
企業	東青	経営コンサルタント	コロナ禍の影響が緩和され、宿泊・飲食サービスなどの一部の業種で上昇傾向はあるが、コロナ関連融資の返済が本格的に始まっている。全国的に2年連続で一人当たりの平均給与は上がってきており、毎年10月からの最低賃金の引き上げにより、スーパーや清掃業などパート従業員比率の高い企業は人件費の上昇により、企業利益は圧縮される。
	津軽	食料品製造	中小企業の経営者は自分の給料を下げ対応しているという話を時々耳にします。
		建設	ウクライナ問題が終結しないかぎり、今の物価高はおさまらないだろう。これから、まだ値上がりが続く、生活が苦しくなると思う。今年の冬への心配が気になって仕方がない。
		経営コンサルタント	介護や建設等の慢性的な人手不足の業種以外でも、いたるところで人出不足、求人に対する応募がないということを知ります。
	県南	電気機械製造	人口が減り始めて、欧米ともうまくいっておらず、どんどん内向き政策になるので商売相手としての期待は今後できないと思います。
		建設	2024年4月から施行される残業抑制などによる「物流の2024年問題」で運送業界が大きく揺れている。燃料高騰、人件費高騰、残業抑制、人材不足などで経営の見通しのつかない会社は廃業の動きがでてきた。また、労働時間の抑制で賃金が減る懸念から、トラック運転手側の離職の動きも少しずつ見えてきている。この影響で来年4月からも更に物流コストが上昇して価格転嫁が加速し、景気回復のさらなる鈍化が心配される。
		経営コンサルタント	10月から開始される消費税のインボイス制度の対応については、小規模事業者に関しては、登録を控えて、様子見をする事業者が多い感じがする。
		広告・デザイン	物価高で何もかも価格が高騰していて、生活自体が大変な中、消費活動も抑え気味。新しい県知事や日本政府に具体的な対策、助成資金の検討をお願いしたい。
下北	食料品製造	なるべくお客様の負担額が多くならないよう、量の調整をし価格の値下げなど、している所があるようです。	
雇用	津軽	人材派遣	スーパーマーケットで買い物をしていると、10月より更に商品価格が上昇していたり、同価格でパッケージを変えて容量が少なくなるなど実質的値上げが目立ちます。このような状況が一年以上続いており、一方でサラリーマンの賃上げや年金受給者の受給額引き上げは満足に実施されていません。これでは日々の生活は益々厳しくなるばかりです。これから冬にかけてエネルギー価格の更なる上昇によって、暖房費の出費も増すこととなるでしょう。政府には時限的もいいで消費税減税など思い切った政策を強く願いたいところです。

青森県景気ウォッチャー調査について

1. 調査の目的

統計データには表れないきめ細かな生活実感のある情報を収集し、県内景気動向判断の基礎資料とする。

(1) 調査の範囲

県内を東青地区、津軽地区、県南地区、下北地区の4地区に分け、各地域における経済活動の動向を敏感に反映する現象を観察できる業種の中からおよそ30業種を選定し、そこに従事する100名を調査客体とする。

○地域別・分野別の客体数

地区	対象地域	調査客体数			
		合計	家計	企業	雇用
東青	青森市とその周辺町村	30	23	4	3
津軽	弘前市とその周辺市町村	30	22	6	2
県南	八戸市とその周辺市町村	30	21	7	2
下北	むつ市とその周辺町村	10	9	1	0
		100	75	18	7

○分野別の業種・職種

家計関連	小売	コンビニエンスストア、百貨店・スーパー、乗用車販売、衣料専門店、家電量販店、商店街、卸売業
	飲食	一般飲食店、レストラン、スナック
	サービス	観光型ホテル・旅館、都市型ホテル、観光名所等、旅行代理店、タクシー、美容院、ガソリンスタンド
	住宅	設計事務所、住宅建設販売
企業関連	食料品製造、飲料品製造、紙・パルプ製造、電気機械製造、建設、経営コンサルタント、広告・デザイン	
雇用関連	人材派遣、新聞社求人広告、求人情報誌	

(2) 調査事項

① 3カ月前と比べた景気の現状判断とその理由

② 3カ月後の景気の先行き判断とその理由

参考1 景気の現状判断

参考2 その他自由意見

(3) 調査期日等

四半期に一度（1月、4月、7月、10月）実施し、翌月初旬に公表。

2. DIの算出方法

景気ウォッチャー調査におけるDI(ディフュージョン・インデックス)は、景気ウォッチャーによる景気の現状・先行き判断を示す指標で、景気の現状または先行きに対する5段階の判断それぞれの所定の点数に各判断の構成比(%)を乗じて算出している。

評価	良くなって いる	やや良 なっている	変わらない	やや悪 なっている	悪くなって いる
点数	1	0.75	0.5	0.25	0

※ 回答者全員が「(景気は)変わらない」と回答した場合、DIは50となるため、50が景気の方向性を表す目安となる。

(本調査についてのお問い合わせ先)

〒030-8570 青森県企画政策部統計分析課 統計情報分析グループ

tel : 017-734-9166

fax : 017-734-8038